

I. 予算のポイント

予算規模

(単位: 億円、%)

○一般会計の平成27年度予算額は、経常的な事務事業を中心とした骨格予算であり、予算規模は8,722億円で対前年度比1.4%の減となった。

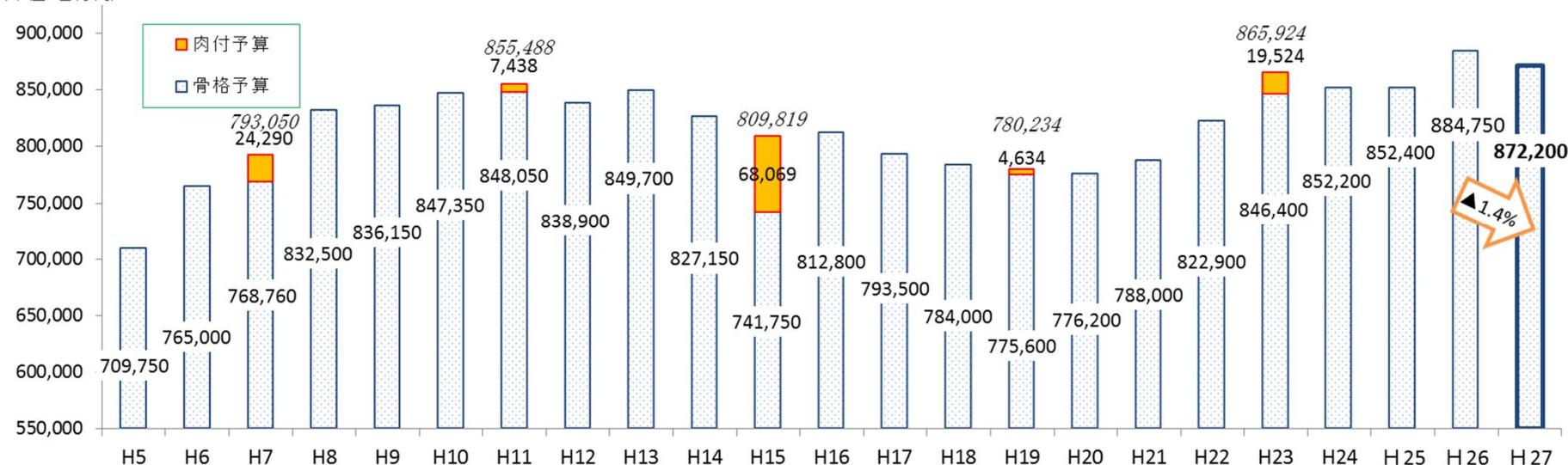
○特別会計・企業会計を加えた全会計では、対前年度比0.5%増の1兆5,443億円を計上。

会 計	27年度予算額	26年度予算額	比較増減	増減率
一 般 会 計	8,722	8,848	▲ 126	▲ 1.4
特 別 会 計	3,914	3,607	307	8.5
企 業 会 計	2,806	2,908 < 2,723 >	▲ 102 < 83 >	▲ 3.5 < 3.1 >
総 計	15,443	15,363 < 15,178 >	79 < 265 >	0.5 < 1.7 >

企業会計の< >内は、公営企業会計制度の変更初年度の特殊要素を除いた額である。

一般会計予算規模の推移

(単位: 百万円)



骨格予算として編成

経常的な事業を中心として編成
補正財源として地方交付税を50億円留保

骨格予算編成の考え方

- 市議会議員・市長選挙を控え、例年実施している経常的な事務事業などに係る経費を中心に計上し、次の市長が判断できる余地をできるだけ残すこととする。
- 停滞の許されない地域経済に影響が生じないよう、工事の早期発注や平準化を図るための所要の建設事業費を計上するとともに、福祉施策や市民生活関連施策など市民生活に影響の大きい事業についても、支障が生じないよう配慮。
- 札幌市まちづくり戦略ビジョンに掲げる取組のうち、中断なく進める必要のある事業については骨格予算に計上し、市民の文化と誇りを育てる施策を未来につなげる。

平成27年度予算のポイント

- 経常的な事業を中心として編成。今後の補正財源として地方交付税を50億円留保
- 道路・街路・公園などの社会基盤整備は、前年度予算比で概ね65%を計上
- 子ども・子育て支援や都心と拠点のまちづくりなど、ビジョンが示す都市像の実現に向けた取組を計上

札幌市まちづくり戦略ビジョン<戦略編>

戦略的に取り組むべき3つのテーマと、戦略を支える都市空間の創造

暮らし・コミュニティ

つながりや支え合いによる安心して暮らせる地域を目指す

地域福祉力創造戦略 ～市民が孤立することのない地域づくり～ (7ページ)

- ・生活困窮者自立支援事業の実施
- ・広域型特別養護老人ホームの新築(定員80人6か所)
- ・よりきめ細かな見守り活動や地域保健活動の推進
- ・備蓄物資配置場所の整備

共生社会創造戦略 ～全ての市民が社会に参加できる地域づくり～ (8ページ)

- ・「子ども・子育て支援新制度」が本格スタート
- ・保育、幼児教育、子育て支援の「質の向上」と「量の拡充」を図る(保育定員616人増など)
- ・旧真駒内小敷地に、(仮称)南部高等支援学校を整備
- ・旧真駒内緑小跡施設に、子どもの体験活動の場を整備
- ・学びのサポーターを配置

地域マネジメント創造戦略 ～地域資源の活用の推進～ (9ページ)

- ・町内会活動への総合的な支援
- ・次世代のまちづくり活動の担い手を発掘育成
- ・車道等の除雪・運搬排雪、ロードヒーティングなどの管理
- ・2017年アジア冬季競技大会の開催準備を推進

<p>産業・活力</p> <p>北海道経済全体の活性化を見据えた足腰の強い経済基盤の確立を目指す</p>	<p>札幌型産業創造戦略 ～新たな価値の創造による産業の高度化～ (10ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業立地の推進 ・中小企業金融対策資金貸付金により事業活動を支援 ・雪まつりの魅力アップ(アートを取り入れた雪像制作など) ・札幌型環境・エネルギー技術の開発支援 <p>都市ブランド創造戦略 ～道内循環を高め、道外需要を取り込む手法と基盤づくり～ (11ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌コンテンツ特区の推進 ・MICEの誘致を推進 ・創造都市さっぽろの推進 ・道内市町村との連携を推進 <p>産業人材創造戦略 ～将来の札幌・北海道経済を支える人材の育成・活用～ (12ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題探究的な学習モデル研究の実施 ・小・中学校及び高等学校に外国語指導助手を78人配置 ・女性起業家の育成やワーク・ライフ・バランスの推進 ・小学校に観察・実験アシスタントを配置
<p>低炭素社会 ・エネルギー転換</p> <p>低炭素社会と脱原発依存社会の実現を目指す</p>	<p>低炭素都市創造戦略 ～環境負荷の少ない都市の形成～ (13ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月寒公園や街区公園などの公園整備 ・歩行者と自転車の共存する空間の創出 ・学校施設をはじめ市有施設への太陽光パネルの設置 ・都心や主要幹線の街路樹をボリュームアップ <p>次世代型エネルギー創造戦略 ～エネルギー効率と安定性の向上～ (14ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駒岡清掃工場の更新に向けた基本計画の策定 ・札幌省エネアクションプログラムの推進 ・省エネやバリアフリーに係るリフォームに対する補助 ・家庭の生ごみ減量とリサイクルの推進
<p>都市空間</p> <p>持続可能な札幌型の集約連携都市への再構築を進める</p>	<p>戦略を支える都市空間の創造 (15ページ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創世交流拠点のまちづくりを先導するため、北1西1地区市街地再開発事業を推進し、(仮称)市民交流複合施設や公共駐輪場を整備 ・白石区役所、保健センター、区保育・子育て支援センター、(仮称)絵本図書館などの公共施設を、地域交流拠点にふさわしい機能を備えた複合庁舎として整備 ・円山動物園にホッキョクグマ・アザラシ館を建設 ・苗穂駅周辺地区整備、苗穂駅移転橋上化 ・中央体育館の改築 ・民間建築物の耐震化の促進 ・新たな都心まちづくり計画の策定 ・北2西3北地区、大通東4地区の民間優良建築物等整備への補助

- 予算編成プロセスの公開の推進** (33ページ)
- 中学校への出前講座の実施規模を拡大
 - 小学生を対象とした租税教室でのさっぽろのおサイフ配付
 - 高校生への体験学習(予算編成シミュレーション)を実施
 - 11月4日から12月3日まで予算要求に対する意見を募集

Ⅱ. 予算の姿

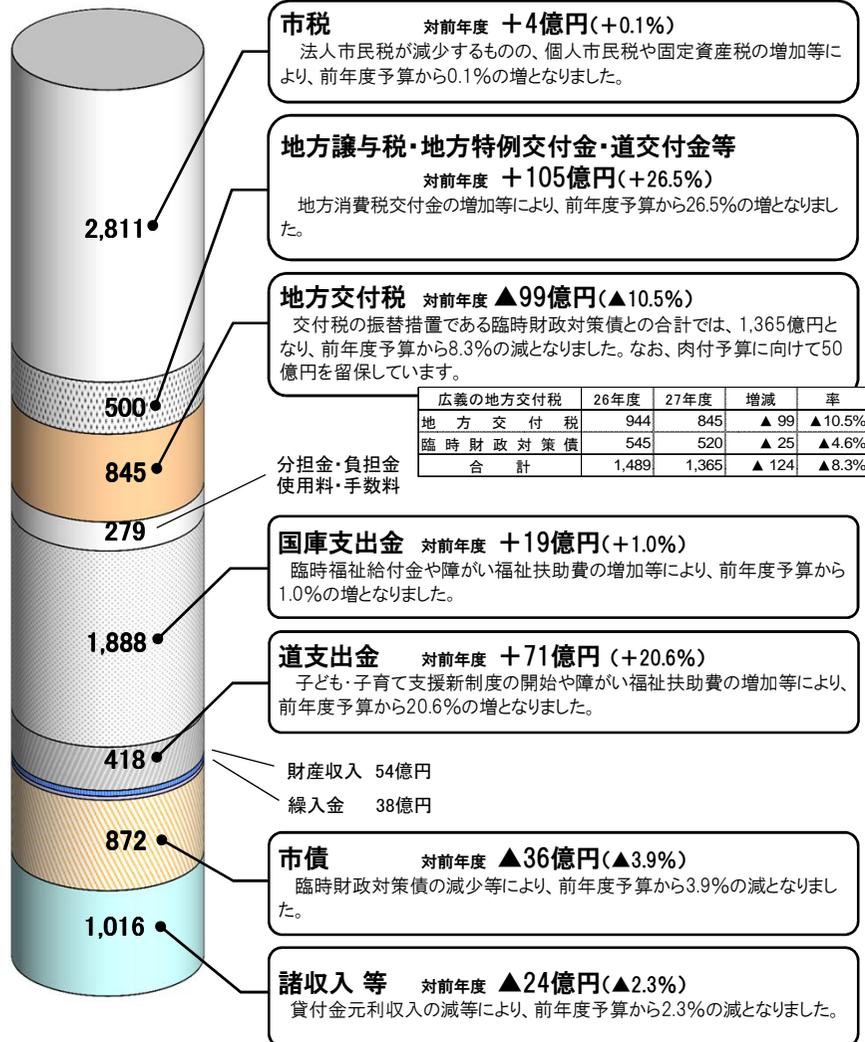
一般会計予算の概要

歳入

総額 **8,722** 億円

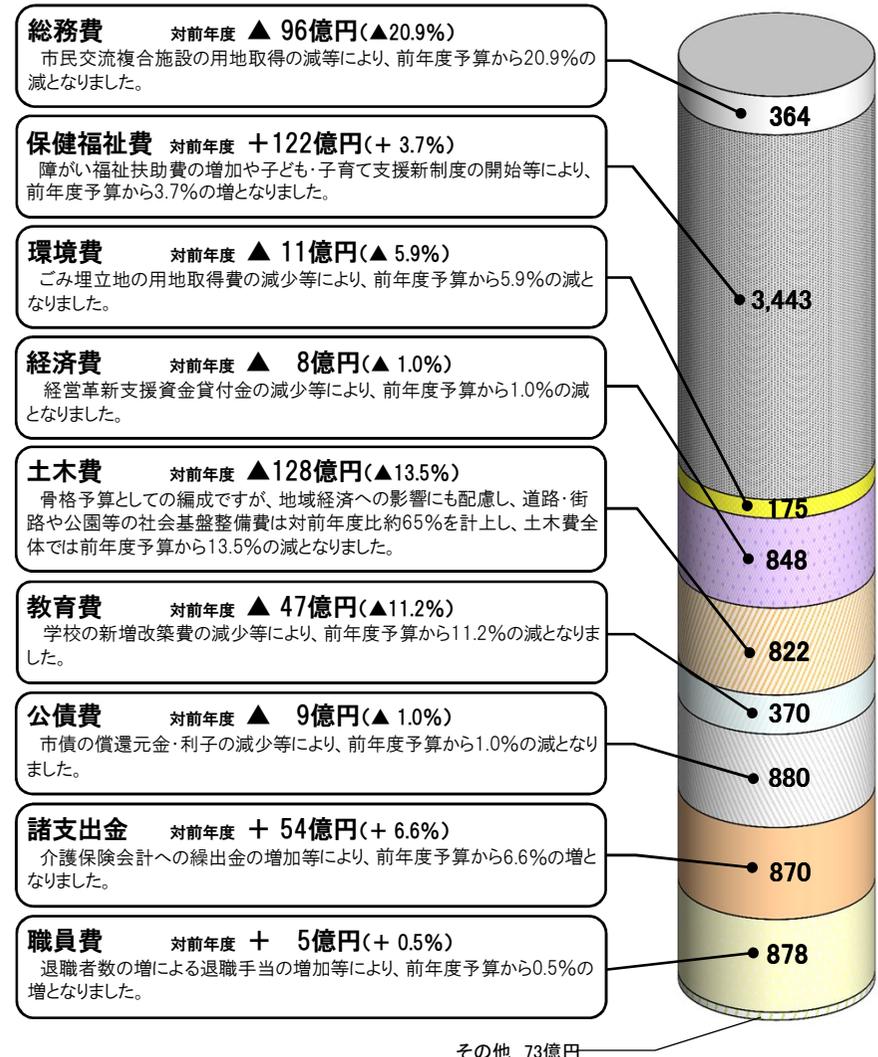
対前年度 ▲126億円(▲1.4%)

(単位:億円)



歳出

(単位:億円)

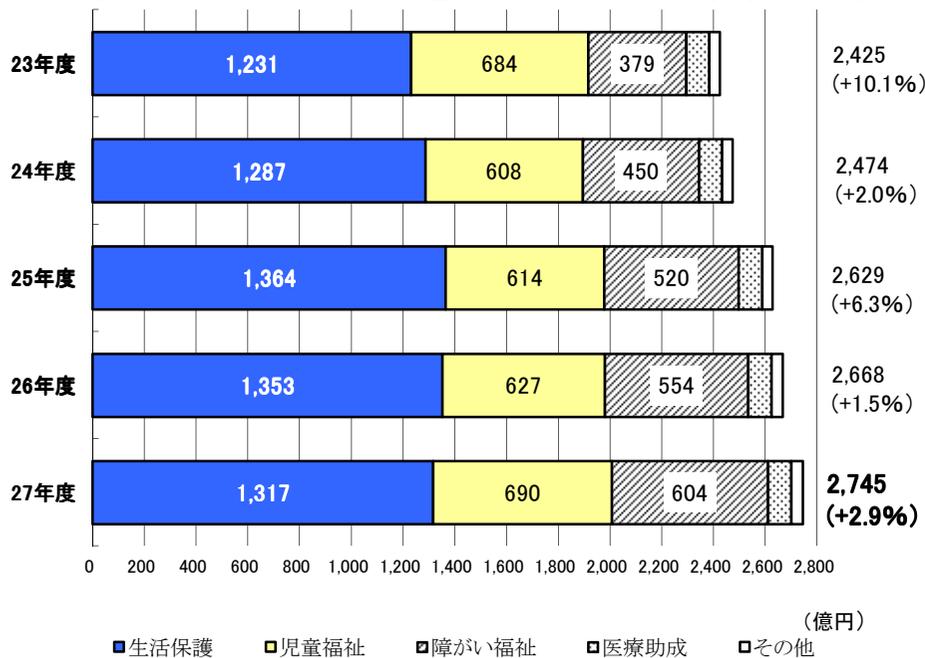


扶助費・建設費

扶助費

○扶助費は引き続き増加傾向

- ・生活保護費の減（対前年度比▲2.6%）
対予算比では減を見込むものの、対決算見込比では0.6%の増
- ・児童福祉費の増（対前年度比+10.0%）
子ども・子育て支援新制度の開始による増
- ・障がい福祉費の増（対前年度比+9.0%）
就労系サービスや障がい児通所サービスの利用増等による増

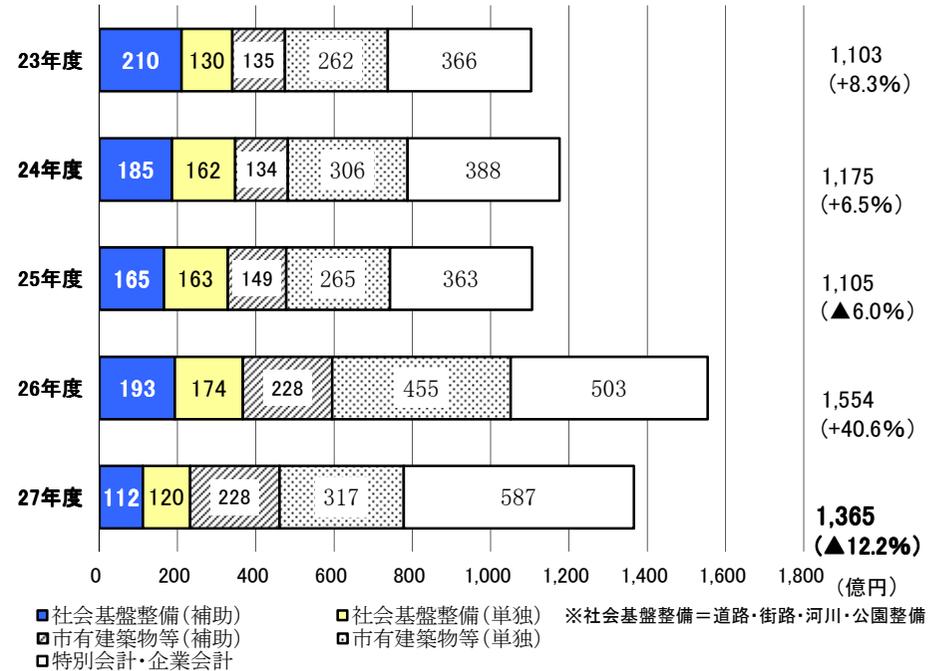


建設費

(全会計)

○全会計の建設費は1,365億円を計上

- ・27年度は骨格予算編成となるが、地域経済への影響にも配慮し、社会基盤整備(道路・街路・河川・公園)は対前年比約65%の232億円を計上。
- ・特別会計・企業会計を含めた全会計の建設費としては1,365億円を計上。



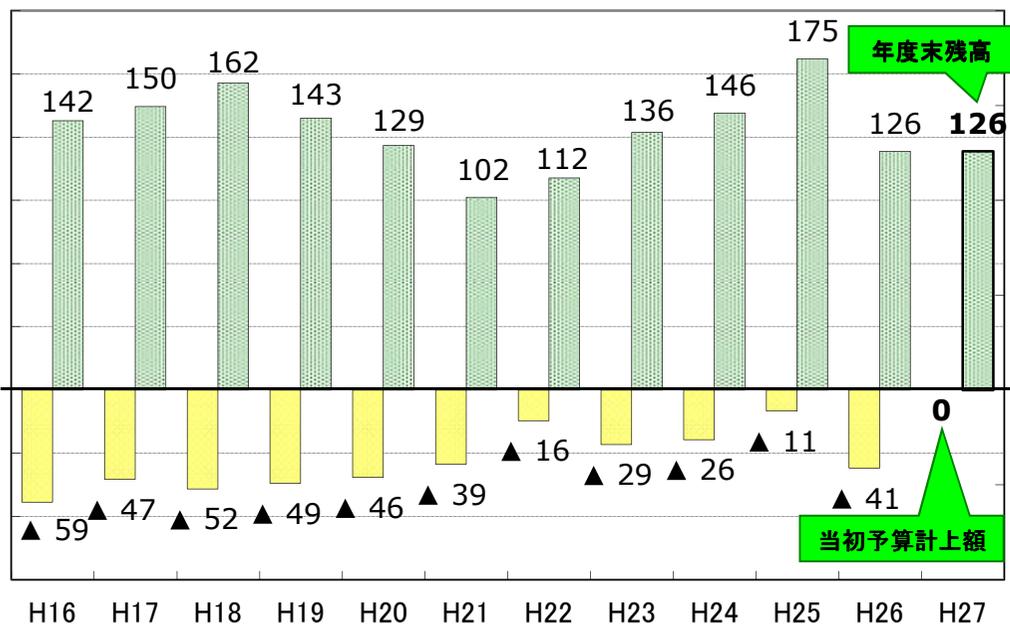
財政調整基金の状況・市債残高

財政調整基金

○財政調整基金は取崩しせず

財政調整基金からの繰入は当初予算に計上しない
当初予算に計上しないのは15年度以来12年ぶり

財政調整基金の状況



※25年度までの年度末残高は決算ベース、26年度末残高は決算見込みベース

市債

○市全体の市債残高は減少

臨時財政対策債の影響により、一般会計の市債残高は増加が見込まれるものの、市全体の市債残高は減少

